

徳大病院に4400万円助成

佐賀のNPO、糖尿病治療で

1型糖尿病の根本治療を目指す再生医療の臨床試験（治験）を進める徳島大学病院の研究グループが、患者と家族を支援するNPO法人「日本IDDMネットワーク」（佐賀市）から治験の拡大に向けた研究資金として4400万円の助成を受けた。

研究グループは4月、患者自身の細胞から作製したインスリン産生細胞の移植手術を世界で初めて行った。年度内に3例を実施する予定。その後、今回の助

成金を活用して治験の対象を20〜30人に増やし、現在は手作業で行っている産生細胞の作製を機械化する方



岩永理事長（右）から研究資金の目録を受け取る池本教授（佐賀県庁（徳島大学病院提供）

法を確立する。

助成金の原資は、特定事業の資金をふるさと納税で募る佐賀県のガバメントクラウドファンディング（GCF）。2025年6月から今年3月末までに、1099人から計5172万円がネットワークに寄せられた。

ネットワークは1995年の阪神大震災の際、患者らがインスリンの入手に苦労した経験を契機に発足。全国の患者や家族が交流を深めるとともに研究資金の寄付を募り、根本的な治療法の研究費を助成している。

研究グループを率いる池本哲也教授（消化器・移植外科）が7月28日、佐賀県庁で同ネットワークの岩永幸三理事長から目録を受け取った。

池本教授は「患者さんや関係者からの期待の大きさを感じている。肅々と研究を進め、明るい未来を示せるよう全力で取り組む」と話している。（山口和也）